

●市長挨拶

長久手市長 吉田 一平

皆さん、こんばんは。大変お疲れのところを、こうしてご出席いただきまして、ありがとうございました。

まず、開会にあたって少しお話をさせていただきます。



長久手の市民の思いが込められたまち詩（うた）について、皆さんもお聞きになったと思いますけども、市民の皆さん 50人くらいが、みんなで作るまち条例をつくるためにお集まりになり、2年間にわたって、どうしようこうしようと言ったことを詩にしたものです。

日本では、明治維新以降、経済を膨張させ、人を増やしてきましたが、とにかく早く動くために、縦割りにし、分業化して、専門化して走ってきた時代が終わろうとしているわけです。

もっと人口が減少し、経済が縮小するときは、みんなで包括的に手を組み合って、一緒に手を組んでまちをつくっていかねばなりません。この詩には、とにかくみんなで声を聞こうじゃないか、対話しようじゃないか、ゆっくり行こうじゃないか、遠回りしようじゃないか、失敗してもいいじゃないかということがうたわれています。今日の市民のためではなくて、明日の市民に渡すため、この3年、5年、私たちが生きている間ではなくても、その次の10年、20年、30年に向かって、全く新しい時代が来る、その先駆けの歌のような気がします。

今日は、これから、次の世代にまちをどう渡していこうかということを考えられたらいいなと思っています。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。